

## 新学習指導案 令和4年度～（記入例）

【参考】『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 令和3年8月 国立教育政策所教育課程センター

○○科（        ）学習指導案 <span style="float: right;">○○高等学校   ○○科   ○年</span> 令和○○年○○月○○日（○）第○時限      場所：○○○○   指導者：○○   ○○			
単元(題材)名			
学習指導要領上の位置づけ	学習指導要領の各項目の「内容」に示された項目を記す。(内容のまとめり)		
単元(題材)の目標	「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」のすべての内容を踏まえて記す。		
単元(題材)設定の理由	＊この単元(題材)全体についての指導方針を述べる。[指導者の立場で書く] (1) 生徒観 ・教科で身に付ける資質・能力の点で、学年目標への達成状況等について具体的に記す。 ・これまでの学習経験や既習事項の習得状況等(生徒がどのような学習を積み重ねてきたか、どのような実態にあるのか)を記す。また、その実態を踏まえて、当該単元(題材)の学習で身に付けさせたい力について記す。 (2) 教材観 ・教科で身に付ける資質・能力育成の観点から単元(題材)で育成できることについて、具体的に記す。 ・生徒観を踏まえ、単元(題材)の目標を実現するために扱う教材の系統性、特徴、意義、価値等について記す。また、既習単元(題材)との関連や今後の展開等についても触れる。 (3) 指導観 ・単元(題材)の目標を実現するために、(1)で記述した生徒の実態を踏まえ、(2)で記述した教材を用いた有効な指導の方針や方法を記す。 ・単元(題材)の目標の実現に向けた、生徒の実態に応じた教材の活用方法や言語活動を適切に位置付けた授業構成、指導形態や環境設定の工夫等について記す。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導上の工夫や手立てを明確に記す。		
単元(題材)の評価規準	知識・技能※	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【高等学校 各教科】                      (国立教育政策研究所教育課程センター)を参考にする。                 </div>		

※職業に関する教科は知識・技術

◇指導と評価の計画（全 時間）

時	主な学習活動	評 価 規 準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1				
2				
3		<p>単元（題材）の評価規準をもとに、単元（題材）全体について1時間（2時間ひとままりの場合は2時間でもよい）ごとに作成する。評価規準は「ねらい」が達成された具体的な姿（おおむね満足できる状況）を表すものである。</p> <p>指導の重点化の観点から、<u>評価回数は1時間に1～2回</u>とするよう心がけ、単元（題材）全体についての計画を作成する。</p> <p>○「知識・技能」のポイント                      ・基本的に、当該「内容のまとまり」で育成を目指す資質・能力に該当する「知識及び技能」で示された内容をもとに、その文末を「～している」「～することができる」などとして評価規準を作成する。</p> <p>○「思考・判断・表現」のポイント                      ・基本的に、当該「内容のまとまり」で育成を目指す資質・能力に該当する「思考力、判断力、表現力等」で示された内容をもとに、その文末を「～することができる」として、評価規準を作成する。</p> <p>○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント                      ・基本的に、当該科目の「主体的に学習に取り組む態度」の観点の趣旨をもとに、当該「内容のまとまり」で育成を目指す「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」の指導事項等を踏まえ、その文末を「～しようとしている」として評価規準を作成する。</p>		
4				
5				

◇本時のねらい (第 時)

※ 指導と評価の計画の該当する時間との整合を図り、生徒に実現させたいねらいについて、生徒の立場で書く。  
 (例) ○○に関する社会的な課題について、解決策をグループで話し合うことを通して、自分自身の考えを表現する。

ねらいを達成するために、適切かつ効果的な学習活動となるよう工夫する。

◇指導過程

段階	学習活動	時間 (分)	◇指導上の留意点 ◆評価規準【観点】(評価方法) ※◆の次にAの具体的な姿の例と、Cへの手立ても記す
導入	[生徒の立場で書く] (例) 1 前時までの内容を振り返り、本時のねらいを把握する。		[指導者の立場で書く]
	<b>生徒に示す本時のねらいや学習課題 (例)「○○に関する社会的な課題を解決しよう。」</b>		
展開	2 ○○の課題を把握する。 (1) グループでグラフデータと新聞記事から○○に関する課題を発見する。 (2) 課題を板書し発表する。 3 ○○に関する課題の解決策について考える。 (1) グループで課題の解決策について話し合う。 (2) グループごとに解決策を発表する。 (3) 多様な解決策があることを知る。 (4) 発表をもとに解決策についての自分自身の考えをワークシートにまとめる。		◇学習活動について、指導上の重点、工夫、手立て、支援等について留意すべきことを具体的に記す。 (例)・生徒一人一人の学習進度に応じた手立て ・生徒が主体的な学習を進める手立て ・資料提示の機会や方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫 ・つまずきのある生徒への支援  [文末表現例] ○ ～助言する      × ～説明する ～配慮する      ～指導する ～を促す      ～させる  ◆○○の課題の解決策について、自分自身の考えを表現している。 【思】(ワークシート) A:○○の課題の解決策について、現実的・具体的に考え、表現している。 C:本時の活動について質問したり、他者や他グループの意見や発表の内容について確認したりして、○○の課題解決策について自分自身の考えをもてるよう支援する。
まとめ	4 本時の学習内容を整理し、ねらいが達成できたかどうかを振り返る。		※A:Aと判断する根拠となる生徒の具体例を記す。 ※C:Cと判断した生徒に対する、具体的な指導や支援の手立てを記す。

【知・技】知識・技能  
【思】思考・判断・表現  
【態】主体的に学習に取り組む態度

資料	ワークシート、○○を表したグラフデータ、新聞記事
----	--------------------------